



アスペンジュニアセミナーの紹介（無料 高2限定）

【目的と効果】

このセミナーは、東西の「古典」を教材に、参加者による「対話」を通じて「善く生きるとは」、「何のために学ぶのか」、「何のために働くのか」、「大切にしたい価値」といった人生の重要な課題について考えることを目的としています。難解な古典のテキストを徹底的に読むことにより高い読解力を養うだけでなく、古典に触れる喜びを体験します。学校の授業とは異なり、正解のない事柄に対して、自分の頭で懸命に考え抜く経験をし、さらに「対話」を通してそれぞれが考えたことを披瀝しあうことで、視野を広げ、判断力を高め、将来大きな困難に遭遇した時に何らかの解決の糸口を発見する力を養います。

【セミナーの進め方】

各校からの参加者1クラスあたり15人～20人編成の3クラスで、10月のオンラインオリエンテーションを皮切りに、11月・12月・1月の各月1回、日曜あるいは祝日の午後を使って、対面での対話が繰り広げられます。参加者は、事前に配布する東西の「古典」を抜粋したテキストを何度も読み、セミナーに備えます。

セミナーは、筆者の考えに対する自分の意見を述べる「対話」によって進められます。ほかの参加者の意見に耳を傾け、自分が思いもよらなかった気づきを得られ、逆に自分もほかの人に大きな刺激や示唆を与えることもあります。

モデレーターと呼ばれる進行役の先生は、直接的には何も教えません。参加者同士の対話を通して、自分自身への反省や発見、そして著作や著者に対する思索を深めます。

一人でテキストを読んでいた時は難しくて歯が立たなかった古典がモデレーターの進行により、参加者の皆さんがさまざまな意見を出し合い、皆の知恵を合わせることで理解が進み、そこから新たな気づきが生まれ、古典の偉大さ、面白さを実感できます。

【実施スケジュール】全日程出席が参加の条件です。

オリエンテーション：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

10月27日（日）午後2時～4時

セミナー：対面開催（東洋大学京北高等学校）

Day 1 11月17日（日）午後1時～5時20分

Day 2 12月15日（日）午後1時～5時20分

Day 3 1月13日（月・祝）午後1時～5時20分

時間は変更の可能性があります。



【参加条件】

- ・参加者は高校2年生に限定します。
- ・オリエンテーションを含めた全日程4日間すべて出席できること。
- ・オリエンテーションで使用するパソコン・その他デバイス・インターネット環境が整っていること。（タブレット、スマートフォンは推奨しません。）

【使用テキスト】

オリエンテーション 芭蕉 「おくのほそ道」

Day 1 アリストテレス「形而上学」 ソロー「ウォールデン」

Day 2 旧約聖書「創世記」 オルテガ「大衆の反逆」

Day 3 森鷗外 「かのように」

【セミナーにご参加いただく先生（予定）】

荻野 弘之 先生（上智大学教授）

荻部 直 先生（東京大学教授）

ランドル・ショート先生（慶應義塾大学教授） 他、産業界の先生方

【参加場所】

オリエンテーションは各自の自宅からオンライン参加

対面のセミナーは東洋大学京北高等学校（文京区白山2-36-5）で実施

最寄駅は都営地下鉄三田線白山駅

【費用】

無料。但し対面セミナー会場までの交通費は各自負担。

【校内募集】

定員：1校からの応募は3名までとなっています。

応募締切：9月4日（木）朝8時までグローバル教育部に以下の書面を提出。

提出物：A4サイズ用の紙にクラス・番号・氏名・メールアドレス・志望動機を書いて下さい。手書きでもPCを使用してどちらでも結構です。

選考：4名以上の応募があった場合は何らかの選考を実施します。3名以下でも志望動機があまりに希薄な場合は応募を遠慮してもらいます。

本校特有の事情として修学旅行第2隊のクラスは帰京が10月26日（土）となります。疲れているとは思いますが、翌日午後のオンラインオリエンテーションには確実に出席できることが参加条件となっています。部活動をしている生徒諸君は全日程4日間に公式戦が重なっていないかなどもよく確認した上で応募して下さい。

対面セミナーで使用されるテキストは日本語で書かれていますので、英語力がないからと遠慮する必要はありません。

参考:前年度のセミナーに参加した現高校3年生の大河内君がグローバル通信135号に寄稿してくれた感想を再掲します。

善く生きるには何が必要か

高校2年2組 大河内 彬智

善く生きるには何が必要か、考えたことはあるでしょうか。私は時折、自分は本当にこのままの生き方でいいのかと悩むことがあり、何が自分にとって一番よい人生なのかと思索していました。そんな折に参加を決意したアスペンジュニアセミナーでは、古典を通じて自分の知見を深め、“善く生きる”とは何かを考えることが出来ます。

まずは一度自分だけで指定された古典のテキストを事前に読み、それから他校の生徒や先生方と対話して意見を交わし、作品の意図を読み取ります。他の人間と自分の意見が完全に一致することなどそうありません。私は対話することで、自分では気付きもしなかった捉え方に何度も出くわしてきました。生徒同士での議論が行き詰ったときは、リソースパーソンの先生が作品に関する新たな情報やテーマを与えてくれます。このサポートが刺激となり、停滞しかけていた議論が再び盛り上がります。他校の生徒と対話することへの不安や緊張も感じるかもしれませんが、相手が初対面であるからこそ気を遣わずに話すことができ、議論に集中することが可能になるともいえます。自分だけで考える時間も確かに大切ですが、どれだけ一人で考え抜いても新しい発想や発見をすることができず、むしろ考え方が凝り固まって堂々めぐりとなってしまうこともあり得ます。しかし先生の助言や、他の生徒の方々の意見は、そんな自身の乾いた価値観に潤いを与え、新たな視点へと導いてくれることでしょう。

古典とは言わば、数百年前から現代に至るまで遺されてきた知恵の結晶のようなもので、そこから読み取れる価値観は様々でしょう。古典の解釈の数はそれを読む人の数と同じだけあります。明確な答えがないものを理解するなんて難解だと思ってしまうかもしれません。しかし古典を読む上で大切なのは無理に他者の価値観を理解することではなく、自分の価値観に他者の価値観という刺激を与え、考え方の選択の幅を広げることだと私は考えています。

松尾芭蕉の『奥の細道』から読み取れる「かろみ」という概念のように、アリストテレスの『形而上学』から読み取れる形而上的経験のように、古典ではその作品特有の、作者が辿り着いた一つの人生観に立ち会うことができます。中でも森鷗外の「かのように」では、「人生のあらゆる価値のあるものは、かのようにを中心に行っている」という台詞が出てきます。これは一体どういうことか。実際に読んでみると理解できますが、読むまではまったく理解できそうもないような考え方も、他校の生徒や先生の力を借りながら少しずつ読み取っていくと、文字と歴史の間に隠された宝を見つけるような感覚になり、非常に楽しかったです。

こういったように、古典は今まで考えたこともないような新しい価値観を私たちに教えてくれます。自分一人では到底辿り着くことが出来ないような、はっと気付かされるような価値観を発見し享受する。これこそが古典の、引いては他者の作品を鑑賞する上での醍醐味と言えるのではないのでしょうか。作品を見るということは、その作品の作者の一部を見るということであり、作者の人生を垣間見る行為とも言えます。それは我々のこれからの人生を支える大きな指針になるのではないかと思います。

他者と対話し、作品とも対話することで、己の価値観が広がり、それは自身の中にある考え方の可能性を広げることに繋がります。それは将来、何か問題にぶつかったときに自身を成功へと導くための選択が増えるということだと考えられはしないでしょうか。

時間に追われて窮屈さを感じることも多い昨今の世の中だからこそ、一度立ち止まって、古典を通じて過去の人々の生き方を見返して、自分なりの“善い生き方”を探してみる時間が必要なのかもしれません。



A チームセッション
「創世記」

日本アスペン研究所 HP より転載



B チームセッション
「大衆の反逆」

日本アスペン研究所 HP より転載



C チームセッション
「形而上学」

日本アスペン研究所 HP より転載

今号はアスペンジュニアセミナーに特化したものとなりましたが、古典をじっくり読む経験を持つ現代人は少ないのではないのでしょうか。"seminar"という語はヨーロッパで神学を学ぶ神学校(seminary)に由来します。語源的には"place where seeds are grown"ということでまさに対話を通じて種が育っていくことを示しています。比較的時間にゆとりのある夏休みですから目の前の課題だけ終わらせるのではなく、少し欲張って古典の一部だけでもいいので落ち着いて読んでみる豊かな時間を作りたいものです。自分なりのこだわりを持った時間を取り入れて新たな気づきを得る夏にしたいと願っています。